

【生涯学習センターと図書館のあり方】

- 図書館をさらなる生涯学習の拠点施設とすることに期待する。
- 市民相談窓口を設置するなど、「知的生活デパート」を目指し、図書館の役割を拡大させる。
- 生涯学習センターと図書館は、文化、学習及び居場所づくりという共通点があり、ベストな選択
- 図書館、生涯学習課双方の情報を共有し、幅広い機能を持つことができるとともに、相互の利用者増につながる。
- よく勉強され、練られているが、公共施設マネジメント計画や教育基本構想についてしっかり学んでおく必要がある。
- 元気な沼津になるためには、市民が学び賢くなる必要があるとあり、その実践の場として図書館とともに進化することを期待する。
- 図書館の活用の幅が狭くなることが心配
- 同じ建物内で同じ目的を持った社会教育施設として、ハイブリットで機能して欲しいが、図書館としてはどう考えているのか。
- 生涯学習センターは、青少年教育センターと同じ建物でよい。現在の青少年教育センターを教育プラザにすればよい。

【運営について】

- 図書館に併設することで、生涯学習の利用の多い土・日も対応可能となる。
- 生涯学習課と図書館を一体化し、生涯学習課の中に図書館担当セクションを設けることを検討
- 図書館と同様、人が最も重要であるため、人と人、人と情報をつなぐコーディネータは今から養成し、意欲のある人が安心して動ける環境づくり、仕組みづくりが大切
- 図書館内に設置されているコーナーは、人がいないがそのことで図書館は不便を感じなかったのか。

【施設について】

- 生涯学習課と図書館が一体化した場合、意見具申にある4階の使い方は、生涯学習として用いるスペースを減らすことになるため、現在の図書館事務室の南側を整理し、生涯学習課の事務所とする。
- 講座室をセンター事務室とすることは惜しい。せめて事務室は第4講座室がよい。
- 案内係は児童室ではなく、エントランス内に設置
- 可能であれば、パンとコーヒ等の軽食ができる店があるとよい。

【その他】

- 詳細で素晴らしい計画資料であり、このまま切磋して実行に向かって進めて欲しい。
- 実現できれば、沼津の文化が沼津らしく前進する。
- 「設置ありき」で決まっているのであれば、市民のためにも、図書館のためにもならない。
- 今までなぜ生涯学習センターを作らなかったのか。
- 武蔵野プレイスのようになって欲しくないなので、慎重な検討が必要